

北九州市子ども・子育て会議 委員・専門委員 意見一覧表

【第10回会議検討施策該当分抜粋】

整理 No.	提案 委員・専門委員名	提出日等		該当施策	意見概要	別紙
1	中田専門委員	H25.7.30	会議 発言	現プラン 施策2	保育サービスの施策に関する考え方は、保育所、幼稚園といった施設を中心に考えるのではなく、人(対象となる子ども)を主体として考えるべきではないか。	無
23	北野委員	H25.10.17	会議 発言	現プラン 施策7	資料3-1基本事項の仮説で、施策(5)「就学前教育」に幼稚園と認定こども園が示されているが、ここには保育所も含まれる。	無
144	平田専門委員	H26.2.17	意見書	現プラン 施策2、7	(仮称)子育て支援コンシェルジュ配置事業について せっかくの事業であるので、現在の区役所の子ども・家庭相談コーナーのようなカウンター越しではなく、相談室や親子ふれあいルームのような場所で子どもや親の様子に接しながら、相談ができた、軽度の発達しやがいを疑う場合など、療育に気持ちが向かない方の背中をちょっと押してあげるなど、専門家と専門家の間をつなぐ役割を担うようなことができればよいと思う。	有
137	錦戸委員	H26.2.14	意見書	現プラン 施策3	課題: 障害のある児童をはじめとする利用者数の増加に伴い、小学校等の関係機関とのより一層の連携が必要 小学校との連携が重要視される中、小学校長が数年ごとに変わり、連携の内容が違ってくこともあり、連携の薄さが問われているクラブがある。 情報の共有は、本当に必要性を感じる。 施策の中に学校との連携についてのより具体的な詳しい内容を盛り込み明記して欲しい。 学校だけでなく、療育センター、発達障害者支援センター、教育相談カウンセラーとの放課後児童クラブの指導員の交流の場の設定を望む。	有
138	錦戸委員	H26.2.14	意見書	現プラン 施策3	現状: 全児童化に伴い、高学年児童や障害のある児童の利用が増加している。 障害の診断がつかないいわゆるグレーゾーンと言われる子どもの受入れについても、障害認定のある子どもと同様の指導員の加配を要望する。	有
139	錦戸委員	H26.2.14	意見書	現プラン 施策3	具体的な取り組み: 夏の教室(地域版)の実施 地域の中に、中学・高校にも協力を求め、中学・高校生と小学生との交流の場を設けることを提案する。地域の年長者の方の支援も大切だが、お兄さん、お姉さんという子ども達との関わりが、子ども達の共に学びあうという体験となる。	有
140	平田専門委員	H26.2.17	意見書	現プラン 施策3	「児童概ね40人に対して、指導員2名を促進する」について 子どもが生活する人数として適正であり、是非守って欲しい。大規模学童について現在70名以上は分割するとなっているが、施設の関係上、名簿上での分割というところがある。40人になった場合、施設整備を行って欲しい。	有

整理 No.	提案 委員・ 専門委員名	提出日等		該当施策	意見概要	別紙
141	平田専門委員	H26.2.17	意見書	現プラン 施策3	放課後児童ヘルパーの活用について 学童クラブは生活の場であり、児童は家庭や学校でのいろいろなことを抱えてクラブに戻り、指導員に思いをぶつけてくる。指導員と信頼関係を作るのに時間がかかるため、ヘルパーとして関わりの少ない人が来ても、子どもは戸惑うのではないかと考える。	有
142	平田専門委員	H26.2.17	意見書	現プラン 施策3	放課後ジュニアリーダープログラムの展開について、高学年となると自分の時間を作りたくなるときもある。子どもの成長を考えると、低学年の世話も大切だが高学年独自の活動も大切になってくる。	有
143	平田専門委員	H26.2.17	意見書	全般	北九州市子ども・子育て会議の委員構成について 放課後児童クラブのクラブ数、利用児童数、指導員数などから、北九州市子ども・子育て会議の委員に放課後児童クラブ関係者が1名では少ないと考える。	有
145	香月委員	H26.2.17	意見書	現プラン 施策8	放課後児童クラブ以降の居場所づくりについて 小学生高学年から中学生でも放課後の行き場のない子どもが大勢いる。本市の非行や少年犯罪、学力や体力が低いことも学齢期の過ごし方が大きく関与していると思われる。行き場のない子どもの放課後児童クラブ以降の居場所を作ることは、社会の責任ではないか。 子どもの居場所として、市民センター等の活用、大学生ボランティアの活用を検討してはどうか。	有

北九州市子ども・子育て会議

子育て施策等に関する意見書

氏名	平田 久美子
提出日	平成26年 2月17日
表題	施策7(現プラン施策2、7)幼児期の学校教育・保育の提供(案)
<p>内 容</p> <p>※箇条書きで簡潔にご記入ください。本様式に納まらない場合等は別紙を添付してご提出ください。</p> <p>○(仮称)北九州市子育て支援コンシェルジュ配置事業→区役所に1名とあるが、どういうイメージをもっているのでしょうか。せつかくの事業ですから、現在の子ども相談コーナーのような、カウンター越しでなく、相談室や親子ふれあいルームのような場所で子どもや親の様子に接しながら、相談ができたり、軽度の発達しょうがいを疑う場合など、療育に気持ちが向かない方の、ちょっと背中を押してあげるなど、専門家と専門家の間をつなぐ役割を担うような事ができればいいと思う。</p>	

※事務局受付欄

受付日	・	・

北九州市子ども・子育て会議

子育て施策等に関する意見書

氏名	錦戸 千晶
提出日	平成26年 2 月14 日
表題	施策8(現プラン施策3) 放課後児童クラブ
<p>内 容</p> <p>※箇条書きで簡潔にご記入ください。本様式に納まらない場合等は別紙を添付してご提出ください。</p>	
<p>[課題]○障害のある児童をはじめとする利用者の増加に伴い～一層の連携が必要</p>	
<p>◎小学校との連携が重要視される中、校長先生が数年ごとに変わり連携の内容が違ってくことも多々あり、連携の薄さを問われているクラブもあるのが現状です。</p>	
<p>「クラブでの情報は学校側に伝えてほしい」との話は常時あるが、学校での子どもの様子(学習理解、生活面等)についての個人情報守秘義務があるとのことで、詳しく教えていただけないことも多いのが現状といえる。学校、クラブにと場所は違うが一人の子どもに変わらない。</p>	
<p>学校、クラブの見解が違ふことなく子どもの成長の支援をしたいと考える。情報の共有は本当に必要性を感じる。保護者の話のみでは、一方的な内容が多いのも事実であるため、専門性のある情報を得ることは、将来のあるこどもにとっては重要である。</p>	
<p>施策の中に、学校との連携についての、より具体的な詳しい内容を盛り込み、明記してほしい。</p>	
<p>◎そして、学校だけでなく、療育センター、発達支援センター、教育相談のカウンセラーの方々との交流の場の設定を望みます。これは、指導員の資質向上にもつながっていくと思います。</p>	

※事務局受付欄

受付日	・	・

北九州市子ども・子育て会議

子育て施策等に関する意見書

氏名	錦戸 千晶
提出日	平成26年 2 月14 日
表題	施策8(現プラン施策3) 放課後児童クラブ
内 容	
※箇条書きで簡潔にご記入ください。本様式に納まらない場合等は別紙を添付してご提出ください。	
[現状]全児童化に伴い～障害のある児童の～が増加している。	
◎障害のある子は、子どもの人数に対応し、加配の指導員が配置されている。(障害児として市からの認定を受けた子どもに対しての対応である)しかし、近年、教育相談を受け、障害の診断がつかないグレーゾーンと言われる子どもも多く、増えている。	
学習面、生活面、情緒面も含め、障害児加配の指導員の配置と同じく、指導員の増員を望む。	
現状調査等は難しいと思うが、このような現場の現状を把握した上での施策を障害児の対応の中に盛り込んでいただきたい。	

※事務局受付欄

受付日	・	・

北九州市子ども・子育て会議

子育て施策等に関する意見書

氏名	平田 久美子
提出日	平成 26 年 2 月 17 日
表題	施策8(現プラン施策3) 放課後児童クラブ
<p>内 容</p> <p>※箇条書きで簡潔にご記入ください。本様式に納まらない場合等は別紙を添付してご提出ください。</p>	
<p>児童おおむね40人に対して、指導員2名配置を促進する。→ 40人定員は子どもが生活する人数としては適正で、是非守ってほしい。北九州は大規模学童があり、現在70名以上は分割されているが、施設の関係上名簿上分割というところがある。40人になった場合、施設整備をおこなってほしい。</p>	
<p>放課後児童ヘルパーの活用について→学童は生活の場であり、家庭や学校で色々なことを抱えて、学童に戻ってくる。いやなことがあると黙ったり、指導員に思いをぶつけてきたり、子ども同士のトラブルもある。指導員と子どもたちの信頼関係を作るのには時間がかかる。関わりの少ない人が来ても、子どもは戸惑うのではないかと考える。</p>	
<p>放課後ジュニアリーダープログラムの展開→高学年になると、自分の時間が作りたくなるときもある。子どもの成長を考えると、低学年の世話も大切だが高学年独自の活動も大切になってくる。</p>	
<p>子ども・子育て会議の委員の構成について→北九州市内197クラブ、児童数9510名、指導員749名(指導員206名、補助指導員543名)の大きな団体にも関わらず、子ども・子育て委員が1名では少ないと考えます。</p>	

受付日	・	・

北九州市子ども・子育て会議

子育て施策等に関する意見書

氏名	香月きょう子
提出日	平成26年 2月 17日
表題	施策9(現プラン施策8)青少年の健全育成 子どもの居場所と居場所づくりについて
内 容	
※箇条書きで簡潔にご記入ください。本様式に納まらない場合等は別紙を添付してご提出ください。	
放課後児童クラブも十分とはいえない状況ですが、小学校高学年から中学生でも、放課後行き場のない子どもたちが大勢います。	
この中には、家庭の事情等で徘徊せざるをえない、勉強する場もない子もいます。	
また、保護者の仕事等で目が届かない場合、ひきこもって、ゲームや携帯等にはまってしまう子ども達も多いのが現状です。	
北九州市は、全国的にみても、非行や少年犯罪が多く、学力も体力も低い所です。これには、学齢期の過ごし方が大きく関与していると思われます。	
コムシティに居場所をつくったと言われるかもしれませんが、もっと地域密着型でないと役には立ちません。放課後児童クラブ以降の居場所を作ってやることは、男女共同参画の名の下に労働をしている保護者達を使っている社会の責任ではないでしょうか。	
市民センター等の居場所としての活用を検討してみてもどうでしょうか。大学生のボランティアなどの活用を考えてみてはどうでしょうか。	

※事務局受付欄

受付日	・	・